

いという特長をもっている。

しかし、膨張タービンで圧力エネルギーを回収するとタービン出口ガス温度は低下する。もちろんガバナによる高圧から中圧への圧力調整においても、ジュールトムソン効果によりガバナ出口ガス温度が低下するが、膨張タービンの方がより大きなエネルギー落差があるため、低下する温度幅も大きくなる。一方、都市ガスの供給規定により、需要家への供給温度は通常よりも高くす

した電力を自家消費以外に利用することが困難であったことが挙げられる。そのため、比較的大きな電力消費が見込まれるガス製造所のようなところを除いては導入による経済的効果は期待できなかったのが実情である。

ところが近年、電気事業法の規制緩和により、発電した電力は自家消費するだけでなく、特定供給や電力会社（特定規模電気事業者や一般電気事業者）に売電できるようになった。こうした規制緩和を受けて本件のような自家消費電力の少ないガバナステーションでもガスエネルギー回収発電システムを導入することができるようになった。加えて、地球温暖化対策の一環として、未利用エネルギーの有効利用によるCO₂排出量の削減に対し、その設備システムも導入されるようになった。このい

によっても、本発電システムの未利用エネルギーが期待される

（例として）

「例として、英国の電力会社は、ガスの回収システムを導入することで、CO₂排出量を削減し、エネルギーの有効利用を実現している。このように、本発電システムの未利用エネルギーが期待される」とある。

当社製初号機が、ついで2号機が1982年より運転開始、
同じく大阪ガス榎路製造所においても1987年より運